

第3学年1組 道徳科学習指導案

日 時 令和6年11月21日(木) 3校時
対 象 3年1組 29名
指導者 教諭 [REDACTED]

- 1 主題名 自分に正直に 【A 正直、誠実】
- 2 教材名 まどガラスと魚(「小学どうとく 生きる力3」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「A 主として自分自身に関すること」の(2 正直・誠実)の3・4学年指導内容項目の中で、「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」を取り上げている。

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にでも起こりうることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。

それら乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心の清々しい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にすることを育てていくことが重要である。

児童の発達段階においては、興味の拡大から自己中心的な言動をし、失敗や過ちを起こすことや自己保身からうそやごまかしをしてしまうことがある。うそやごまかしをすると他人だけでなく自分自身も偽ることになり、不快な感情をもち続けることに気付かせることが大切である。そこで本主題において、正直であることが明るい心で生活することに繋がり、それらを理解させることは大変意義のあるものと考えられる。

(2) 児童の実態

本学級は、学級内で問題が起こったときや、友達とけんかをしたときは、正直に過ちを認め、素直に謝ることができる児童が多い。一方で、保身や責任逃れの言動も見られ、自分の都合のいいように解釈をして話したり、過ちを認められずに黙り込んでしまったりする児童もいる。

これらの実態をふまえ、相手や自分に正直だからこそ明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを実感させたい。

(3) 教材について

本教材は、窓ガラスを割ったことを隠し続ける千一郎が、近所のお姉さんの誠実な態度に接したことで、過ちを認めようと思ひ直し、正直に謝りに行き許してもらおうという内容である。

過ちを隠し続けた数日間の千一郎の行動から、うそやごまかしは自分を苦しめ、明るい気持ちで過ごせないことに気付かせたい。また、謝りに行ったときのおじいさんとのやりとりから、正直に行動することによって心の曇りは一気に晴れ、明るく清々しい気持ちに変わることをつかませたい。

指導にあたっては、事前にアンケートをとり、正直さについての自身の考え方を話し合うことで自分事として捉えられるようにする。また、心のパラメータを活用し、心情を可視化させることで、他者理解や、千一郎の心情の変化を考えさせる手立てとしたい。そして、授業の最後に導入のアンケートと同じ発問をすることで、本時を通しての考えを再構築させ正直でいることの価値に気付かせ、考えを深めさせたい。

4 研究仮説との関連

仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないかと考える。

事前に正直さについてのアンケートを行うことで自分の生活を振り返り、自分事として考えさせることができるのではないかな。

また、グループトークを行ったり、全体で意見を共有したりした後に再度同じ発問をすることにより、新しい自分の見方・考え方をもち、正直・誠実について考えを深めさせることができるのではないかな。

5 展開

(1) ねらい

千一郎の心情を考える活動を通して、正直にできないときの心苦しさと、正直に言えたときの清々しい気持ちに気づき、正直に明るい心で元気よく生活しようとする態度を育てる。

(2) 展開 (1/1時)

	学 習 活 動 ○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	□評価 ・留意点 ○評価に対する支援
導入	1 本時の課題を把握する。 正直でいることはどうして大切なのだろうか。	・正直さについてのアンケート結果を掲示し、本時の道徳的価値へ繋げる。
展開	2 教材「まどガラスと魚」を読んで話し合う。 ○まどガラスをわったとき千一郎は逃げながらどんなことを思ったのでしょうか。 ・怒られたくない。 ・ばれなければ大丈夫だ。	・心のバロメーターで視覚的に表し自分事として捉えさせる。
	○白い紙を見たとき千一郎はどんな思いだったのでしょうか。 ・まだ自分だとばれていない。 ・お家の人はおこっているかな。 ・正直に言った方がいいかな。	・児童の発言をゆさぶり正直になれない人間的な弱さにも共感させる。
	◎正直になれなかった千一郎はどうして正直になれたのだろうか。 ・やっぱりうそはだめだと思ったから。 ・ずっともやもやしているのがいやだから。 ・お姉さんを見習おうと思ったから。 ・お姉さんからもらったアジに見つめられているような気がして耐えられなくなったから。 ・お姉さんが謝っているのを見てうそをついている自分が恥ずかしくなったから。	・千一郎の気持ちを考え道徳ノートに書かせる。 ・グループトークを行い、友達の考えに触れさせる。 ・心のバロメーターで視覚的に正直になる前と後との心情の変化を捉えさせる。
	○正直に謝りボールを返してもらったとき千一郎はどんな気持ちだったのだろうか。	・「許してもらえなかったら謝らない方が良かったのではない

	<ul style="list-style-type: none"> ・すっきりした。 ・許してもらえてよかった。 ・気持ちいい。 	<p>だろうか。」という補助発問により、正直に謝ることの価値に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんも気持ちが晴れたことをおさえる。
	<p>○正直でいることはどうして大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も相手もお互いがいい気持ちになるから。 ・自分に自信がもてるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再度同じ質問をし、自分の考えを再構築させる。 ・事前アンケートからの変容を見取る。
	<p>3 自分自身について振り返る</p> <p>○本時の振り返りと正直になって良かった自身の経験を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直にすると相手も気持ちがいい。 ・正直になって自信をもって生きていきたい。 ・落書きをしたときに正直に認めてすっきりした。 ・落としたゴミを正直に自分の物だと認め、ゴミ箱に捨てて教室のみんなも気分が良くなった。 	<p>□正直でいることの大切さに気づき、正直に明るい心で元気よく生活しようとする気持ちを高めているか。(道徳ノート・発言)</p> <p>○正直に行動する前後の後ろめたさや人の心の明るさを想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師自身の経験を話し余韻をもって終わらせる。
終末	<p>4 過ちや失敗を認め正直に行動することについての教師の話聞く。</p>	

(6) 板書計画

